

日本産業衛生学会  
**近畿地方会ニュース**

 発行所 日本産業衛生学会近畿地方会  
 〒602-8048 京都市上京区下立売通  
 小川東入ル  
 中西印刷株式会社（日本産業衛生学  
 会近畿地方会事務局支局）  
 発行責任者 林 朝茂（地方会長）  
<https://jsohkinki.smoosy.atlas.jp/ja>
**第65回近畿産業衛生学会**

主 催	日本産業衛生学会 近畿地方会
共 催	大阪府医師会、大阪産業保健総合支援センター
後 援	関西産研
学 会 長	西田 和彦（長谷工クリニック）
日 時	2025年11月8日（土）
会 場	大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター） （京阪電車／大阪メトロ谷町線「天満橋」駅1番出入口から東へ約350m JR東西線「大阪城北詰」駅、2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m）
テ ー マ	生涯現役社会に向けた産業保健の取り組み
幹 事 会	9:00～10:00 5階大会議室2
代 議 員 会	10:00～10:30 7階ホール（メイン会場）
一 般 演 題 1	10:33～12:12 7階ホール（メイン会場）
一 般 演 題 2	10:40～12:08 5階特別会議室（第2会場）
ランチョンセミナー	ありません。
産業衛生技術部会総会	12:30～13:20 5階特別会議室（第2会場）
表 彰 式	13:35～13:50 7階ホール（メイン会場）
教 育 講 演	13:50～14:50 7階ホール（メイン会場） 「人生100年時代の就労と健康：中高年労働者における血圧管理と産業保健の役割」 座 長：林 朝茂（近畿地方会長、大阪公立大学大学院医学研究科産業医学 教授） 演 者：山本 浩一（大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学 教授） 日本医師会認定産業医単位：生涯・専門1単位 産業保健看護専門家制度研修単位：専門1単位
基 調 講 演	14:50～15:50 7階ホール（メイン会場） 「生涯現役を支える身体バランス：労働災害の疫学が示す未来」 座 長：和久 純也（パナソニック健康保険組合産業衛生科学センター） 演 者：財津 将嘉（産業医科大学高齢労働者産業保健研究センター長・教授） 日本医師会認定産業医単位：生涯・専門1単位 産業保健看護専門家制度研修単位：専門1単位
シンポジウム	16:00～18:00 7階ホール（メイン会場） 「生涯現役社会に向けた女性への産業保健の取り組みを考える」 座 長：西田 和彦（学会長、長谷工クリニック） 安田 恵理子（大阪歯科大学歯学部 口腔衛生学講座） 基調講演「生涯現役社会のための仕事と治療の両立支援～乳がん患者への取り組み～」 演 者：赤羽 和久（赤羽乳腺クリニック院長） 講演2「産業保健師がつなぐ「健康」と「働く」のこれから ～女性が安心して働き続けられる企業を目指して～」 演 者：高木 智子（株）コーサー ライフ＆ウェルネスサポートセンター ウェルネス推進室 講演3「妊婦から始まるお口の健康～産業保健が要（かなめ）～」 演 者：安田 恵理子（大阪歯科大学歯学部 口腔衛生学講座） 日本医師会認定産業医単位：生涯・専門2単位 産業保健看護専門家制度研修単位：専門2単位
懇 親 会	18:40～ Italian Buffet GRAND CANAL 大阪市中央区天満橋京町2-13 ホテル京阪天満橋駅前1F
学会ホームページ	<a href="https://pub.confita.atlas.jp/ja/event/jsohkinki2025">https://pub.confita.atlas.jp/ja/event/jsohkinki2025</a>



第65回近畿産業衛生学会長 西田 和彦  
(長谷工クリニック)

## 第65回近畿産業衛生学会開催のご挨拶

第65回近畿産業衛生学会を担当させていただくにあたり、ご挨拶申し上げます。今年は11月8日(土曜)に開催いたします。気候の良い時期ですので是非ともご参加いただきたいと思います。会場は、昨年夏と同じドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)です。昨年と違い、運営上の理由で現地参加のみに変更いたします。

さて少子高齢化、生産年齢人口の低下が続いている日本では、「人生100年時代」や「生涯現役社会」という言葉をよく耳にするようになりました。現役世代すべての働く人に対して我々産業保健職は、「生涯現役社会」の礎を築く非常に重要な役割を担っています。しかしながら、中高年労働者は段々と生活習慣病を発症し身体機能低下に関わる労働災害の問題も発生します。また、女性特有の疾病や妊娠期、出産・産後の健康課題もあります。

そこで今回、「生涯現役社会に向けた産業保健の取り組み」というテーマで教育講演、基調講演、シンポジウムを企画しました。大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学教授 山本 浩一先生には、教育講演として高血圧に関する話題を中心に「人生100年時代の就労と健康：中高年労働者における血圧管理と産業保健の役割」について、産業医科大学 高齢労働者産業保健研究センター長・教授 財津 将嘉先生には、基調講演として転倒災害の疫学、転倒災害と生活習慣病との関連性など

の話題を中心に「生涯現役を支える身体バランス：労働災害の疫学が示す未来」についてご講演いただきます。シンポジウムでは、「生涯現役社会に向けた女性への産業保健の取り組みを考える」をテーマとして女性特有の健康課題ならびにそれに対する産業保健の取り組みについて学ぶ機会にしたいと考えました。シンポジウム内での基調講演として赤羽乳腺クリニック院長 赤羽 和久先生には「生涯現役社会のための仕事と治療の両立支援～乳がん患者への取り組み～」について、講演2では(株)コーサー ライフ&ウェルネスサポートセンター ウェルネス推進室 高木 智子先生に「産業保健師がつなぐ「健康」と「働く」のこれから～女性が安心して働き続けられる企業を目指して～」、講演3では大阪歯科大学歯学部口腔衛生学講座 安田 恵理子先生に「妊婦から始まるお口の健康～産業保健が要(かなめ)～」というタイトルで産業保健の取り組みについてご講演いただき、さらに総合討論で知見を深めたいと思います。

さて一般演題に多くの投稿をいただき、どうもありがとうございました。日々の産業保健活動に役立つものばかりです。その中から例年通り優秀演題賞、若手奨励賞を表彰します。懇親会も開催いたします。皆様と懇親を深めたいと思いますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 第65回近畿産業衛生学会プログラム

幹事会	5階大会議室 2	9:00～10:00
代議員会	7階ホール(メイン会場)	10:00～10:30
一般演題プログラム(口演)		
一般演題 1	7階ホール(メイン会場)(101～109)	10:33～12:12

座長：鈴木 純子(近畿産業保健看護部会長、独立行政法人健康安全機構大阪産業保健総合支援センター)  
河邊 明男(日本製鉄(株)関西製鉄所安全環境防災部大阪安全健康室)

(101) 事業場インタビュー調査からみえてきた治療と仕事の両立支援における多職種連携の重要性  
○平林 愛子<sup>1</sup>、森岡 郁晴<sup>1</sup>、荒木 美鈴<sup>1</sup>、堤 梨恵<sup>2</sup>(<sup>1</sup>和歌山産業保健総合支援センター、<sup>2</sup>太成学院大学看護学部)

(102) 労働衛生機関における産業保健看護職の育成体制の検討

○塩見 由佳梨<sup>1</sup>、林 有美子<sup>1</sup>、梶岡 恵子<sup>1</sup>、櫻木 園子<sup>1</sup>、森口 次郎<sup>1,2</sup>(<sup>1</sup>一般財団法人京都工場保健会、<sup>2</sup>森口産業医事務所)

(103) 中小企業日勤労働者の睡眠に関連する身体活動

○山形 歩美<sup>1</sup>、近藤 純子<sup>2</sup>、長井 聡里<sup>3</sup>(<sup>1</sup>東京医療保健大学大学院和歌山看護学研究科、<sup>2</sup>大阪成蹊大学看護学部、<sup>3</sup>株式会社JUMOKU)

(104) 就労者の睡眠時間とプレゼンティーズム：寝だめに着目した分析

○川村 敦子<sup>1</sup>、谷川 茉帆子<sup>1</sup>、河津 雄一郎<sup>1</sup>、森野 亜弓<sup>1</sup>、志摩 梓<sup>1</sup>(<sup>1</sup>株式会社平和堂健康サポートセンター)

(105) 運輸業における過労死等防止対策実装研究の取り組み  
○中西 麻由子<sup>1,2</sup>、吉川 徹<sup>2</sup>、山本 彩加<sup>3</sup>、日高 彩友美<sup>3</sup>、小田原 努<sup>3</sup>、仙波 京子<sup>2</sup>、石井 賢次<sup>2</sup>、深澤 健二<sup>2</sup>、高橋 正也<sup>2</sup>、酒井 一博<sup>2</sup>(<sup>1</sup>なかにしへ

- ルスケアオフィス、<sup>2</sup>過労死等防止対策実装研究チーム、<sup>3</sup>公益社団法人鹿児島県労働基準協会ヘルスサポートセンター(鹿児島)
- (106) 当社の産業保健機能向上への取り組み「Take Action, Be Proactive!」について  
○伊藤 敏文<sup>1</sup> (株式会社竹中工務店大阪本店健康管理室・診療所)
- (107) 造船業労働者の熱中症の実態と生活習慣との関連  
○坂手 誠治<sup>1</sup>、小島 信樹<sup>2</sup> (1 京都女子大学、<sup>2</sup> 日本造船協力事業者団体連合会)
- (108) 職域健診における多血症と高血圧の関連の検討  
○谷川 茉帆子<sup>1</sup>、川村 敦子<sup>1</sup>、志摩 梓<sup>1</sup>、森野 亜弓<sup>1</sup>、河津 雄一郎<sup>1</sup> (1 株式会社平和堂健康サポートセンター)
- (109) 小規模事業場向け産業医活動支援モデル事業の取り組み (途中経過の報告)  
○横山 正<sup>1,3</sup>、森口 次郎<sup>2</sup> (1 京都上地域産業保健センター、<sup>2</sup> 京都産業保健総合支援センター、<sup>3</sup> 社会保険労務士まきた事務所)

**一般演題 2 5 階特別会議室 (第 2 会場) (201~208)**  
10:40 ~ 12:08

- 座長: 岩根 幹能 (近畿産業医部会長、一般財団法人 NS メディカル・ヘルスケアサービス)  
中村 千賀 (大阪信愛学院大学看護学部)
- (201) 職場のインクルージョンが従業員のメンタルヘルスの短期的・長期的安定性に及ぼす影響の検証  
○横内 陳正<sup>1</sup> (1 神戸大学大学院人間発達環境学研究所)
- (202) 職域世代における飲酒行動と次年度の新規所見との関連  
○村澤 駿昂<sup>1</sup>、黒木 和志郎<sup>1</sup> (1 パナソニック健康保険組合産業保健センター)
- (203) 持続蛋白尿発症と関連するライフスタイル: 関西ヘルスケア研究  
○柴田 幹子<sup>1</sup>、佐藤 恭子<sup>1</sup>、宮川 秀男<sup>1</sup>、大上 圭子<sup>2</sup>、小川 康子<sup>2</sup>、森本 道雄<sup>2</sup>、林 朝茂<sup>1</sup> (1 大阪公立大学大学院医学研究科産業医学、<sup>2</sup> NTT 西日本健康管理センター (関西エリア担当))
- (204) ホワイト 500 を 5 年連続取得した企業と連続取得していない企業の健康指標の比較  
○岡本 昭夫<sup>1</sup>、櫻木 園子<sup>1</sup>、森口 次郎<sup>1</sup> (1 一般財団法人京都工場保健会産業医学研究所)
- (205) 当社における産業保健支援の形態と健康リスクの関連 — 久山町研究リスクモデルを用いた横断研究 —  
○黒木 和志郎<sup>1</sup>、奥山 早苗<sup>1</sup>、津田 恵理<sup>1</sup>、吉田 直樹<sup>1</sup> (1 パナソニック健康保険組合産業保健センター)
- (206) 中年期労働者における口腔機能低下症と社会的フレイルの検討  
○松井 大輔<sup>1</sup>、渡邊 功<sup>1</sup>、尾崎 悦子<sup>1,2</sup>、小原 久未子<sup>1</sup>、瀬藤 和也<sup>1</sup>、久保 里沙<sup>1</sup>、寺村 輝<sup>1</sup>、荒川 未来<sup>1</sup>、高嶋 直敬<sup>1</sup> (1 京都府立医科大学大学院地域保健医療疫学、<sup>2</sup> 京都先端科学大学健康医療学部看護学科)
- (207) 高齢化職場における健康促進活動「健康パナソニックエクササイズコンテスト」の実践と効果  
○木下 真由美<sup>1</sup>、村上 彰善<sup>2</sup>、中西 麻由子<sup>1</sup> (1 パナソニック健康保険組合パナソニック京田辺健康管理室、<sup>2</sup> パナソニック健康保険組合産業保健センター健康パナソニック推進部)

- (208) 健康アプリを活用した健康づくりの取り組み

○平田 真以子<sup>1</sup>、丸尾 歩<sup>1</sup>、野中 博文<sup>1</sup>、重富 久未香<sup>2</sup>、片岡 系<sup>1</sup>、伊藤 遼太郎<sup>1</sup> (1(株)クボタ、<sup>2</sup>クボタ健康保険組合)

**産業衛生技術部会総会**

5 階特別会議室 (第 2 会場) 12:30 ~ 13:20

**表彰式**

7 階ホール (メイン会場) 13:35 ~ 13:50

第 65 回近畿産業衛生学会 優秀演題賞

第 65 回近畿産業衛生学会 若手奨励賞

**教育講演**

7 階ホール (メイン会場) 13:50 ~ 14:50

「人生 100 年時代の就労と健康: 中高年労働者における血压管理と産業保健の役割」

座長: 林 朝茂 (近畿地方会長、大阪公立大学大学院医学研究科産業医学 教授)

演者: 山本 浩一 (大阪大学大学院医学系研究科老年・総合内科学 教授)

日本医師会認定産業医単位: 生涯・専門 1 単位

産業保健看護専門家制度研修単位: 専門 1 単位

**基調講演**

7 階ホール (メイン会場) 14:50 ~ 15:50

「生涯現役を支える身体バランス: 労働災害の疫学が示す未来」

座長: 和久 純也 (パナソニック健康保険組合産業衛生科学センター)

演者: 財津 将嘉 (産業医科大学高年齢労働者産業保健研究センター長・教授)

日本医師会認定産業医単位: 生涯・専門 1 単位

産業保健看護専門家制度研修単位: 専門 1 単位

**シンポジウム**

7 階ホール (メイン会場) 16:00 ~ 18:00

「生涯現役社会に向けた女性への産業保健の取り組みを考える」

座長: 西田 和彦 (学会長、長谷工クリニック)

安田 恵理子 (大阪歯科大学歯学部 口腔衛生学講座)

基調講演「生涯現役社会のための仕事と治療の両立支援〜乳がん患者への取り組み〜」

演者: 赤羽 和久 (赤羽乳腺クリニック院長)

講演 2「産業保健師がつなぐ「健康」と「働く」のこれから〜女性が安心して働き続けられる企業を目指して〜」

演者: 高木 智子 ((株) コーサー ライフ & ウェルネスサポートセンター ウェルネス推進室)

講演 3「妊婦から始まるお口の健康〜産業保健が要(かなめ)〜」

演者: 安田 恵理子 (大阪歯科大学歯学部 口腔衛生学講座)

総合討論

日本医師会認定産業医単位: 生涯・専門 2 単位

産業保健看護専門家制度研修単位: 専門 2 単位

## 第 65 回近畿産業衛生学会 開催要項

詳細は、第 65 回近畿産業衛生学会ホームページを参照してください。

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsokinki2025>

### 1. 参加方法

現地参加のみの開催となります。ご注意ください。

### 2. 申込方法

会員・非会員ともに必ず事前参加登録をしてください（当日の申込は受け付けません）。2025年10月1日（水）正午～10月28日（火）の申し込み期間中にホームページ内の「事前参加登録」ページからのみ受付いたします。なお、日本産業衛生学会近畿地方会会員は、会場の定員（500名）を超えない限り受講可能です。

### 3. 参加費

参加費は全て事前クレジット払いです（当日の参加費の支払いは受け付けません）。

参加費のお支払は2025年10月28日（火）23:59までに完了してください。

#### ①日本産業衛生学会近畿地方会員

- ・日本医師会認定産業医単位を希望する方：無料
- ・日本医師会認定産業医単位を希望しない方：無料

#### ②非会員（日本産業衛生学会近畿地方会員以外）

- ・日本医師会認定産業医単位を希望する方：6,000円（消費税額10%内税545円）
- ・日本医師会認定産業医単位を希望しない方：2,000円（消費税額10%内税181円）

#### ③非会員の学生・大学院生（社会人大学院生を除く）

- ・日本医師会認定産業医単位を希望する方：4,000円（消費税額10%内税363円）
- ・日本医師会認定産業医単位を希望しない方：無料

※日本医師会認定産業医単位の申請は、未認定医師の方ではできません。

※令和7年4月以降の産業医研修の単位は医師会会員情報システム（MAMIS）上で管理されます。MAMISへの登録がお済みでない先生は事前にMAMISへの登録が必要です。

### 4. 会場およびアクセス

大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号

電話：06-6910-8500 FAX：06-6910-8775

交通：京阪電車／大阪メトロ谷町線「天満橋」駅1番出入口から東へ約350m

JR東西線「大阪城北詰」駅、2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m

### 5. 一般演題の座長、演者へのご案内

一般演題の構成は、発表7分＋質疑応答4分（移動時間込み）を予定しています。発表スライドを2025年10月31日

（金）までに第65回近畿産業衛生学会ホームページの演題登録サイトより登録してください。詳細はホームページの演題発表抄録原稿の作成要項をご参照ください。

### 6. ランチョンセミナー

今回は予定しておりません。

### 7. 懇親会

時間：18:40～

場所：Italian Buffet GRAND CANAL

大阪市中央区天満橋京町2-13 ホテル京阪天満橋駅前1F

電話：06-4397-3436

交通：京阪電車／大阪メトロ谷町線 天満橋駅 徒歩1分  
定員：先着80名

会費：日本産業衛生学会近畿地方会員4,000円（消費税10%内税363円）

非会員（日本産業衛生学会近畿地方会員以外）6,000円（消費税10%内税545円）

### 8. 抄録集

当日、受付時に会場でお渡しします。

### 9. 問い合わせ先

第65回近畿産業衛生学会運営事務局

長谷工クリニック内

〒541-0046 大阪市中央区平野町1-5-7（学会長 西田 和彦）

Email：kinki65@jsok-kinki.jp

### 10. 実行委員

学会長：西田 和彦（長谷工クリニック）

事務局：岡田 潮（シャープ（株）八尾健康管理室）

小村 江美（日本放送協会大阪放送局健康管理室）

貝森 亜紀（ダイハツ工業（株）本社（池田工場第2診療所）

高島 義嗣（（株）大林組）

谷池 正行（ANA関西空港（株））

実行委員：（五十音順）

石原 宗和（石原歯科医院）

井上 幸紀（大阪公立大学大学院医学研究科神経精神医学）

岩根 幹能（一般財団法人NSメディカル・ヘルスケアサービス）

加藤 尚（医療法人加藤歯学研究会加藤歯科）

佐藤 恭子（大阪公立大学大学院医学研究科産業医学）

鈴木 純子（（独）労働者健康安全機構大阪産業保健総合支援センター）

濱田 千雅（大阪ガス（株）健康開発センター）

林 朝茂（近畿地方会長・大阪公立大学大学院医学研究科産業医学）

深井 恭佑（（株）リードウエル）

藤吉 奈央子（（株）トラストチャーム）

村田 理絵（一般財団法人京都工場保健会）

森口 次郎（合同会社森口産業医事務所）

安田 恵理子（大阪歯科大学歯学部 口腔衛生学講座）

米永 哲朗（米永歯科医院）

和久 純也（パナソニック健康保険組合）

## 第98回日本産業衛生学会の報告

## 第98回日本産業衛生学会に参加して

関西医科大学看護学部

吉田 麻美

第98回日本産業衛生学会が宮城県仙台市で開催されました。メインテーマは「持続可能でよりよい世界を目指す産業保健」です。

会場は仙台城址にほど近い広瀬川沿いの緑豊かなエリアに位置し、ちょうど青葉まつりの時期とも重なり、現地参加された方々は「杜の都」仙台の魅力を存分に楽しまれたのではないのでしょうか。

会期中は、東北開催ならではの教育講演として、中里信和先生による「てんかんと就労」、鈴木匡子先生による高次機能障害に関するご講演をはじめ、小規模事業場へのアプローチや外国人労働者支援といった課題に焦点を当てた多彩なシンポジウム、さらに災害産業保健や医療従事者、合理的配慮、両立支援など関心のある分野の自由集会にも参加し、多くの学びと刺激を得ることができた数日間となりました。また、私自身は、「支援者のセルフケア」ワークショップの企画運営や学部学生のポスター発表にも携わり、様々な形で関わることのできた学会となりました。

多彩なプログラムの中でも強く印象に残ったのは、シンポジウム「小規模事業場へ産業保健サービスを提供するために～先行事例から実装化をすすめる」で示された地域・職域連携や地域産業保健センターでの取り組み、そしてシンポジウム「化学物質リスクアセスメント結果の読み解き方：産業保健の実務に活かすための視点」における、産業保健師による化学物質管理体制の構築事例に関する報告でした。制度や体制が整いつつある今こそ、それを現場へ橋渡しし、持続可能な形に落とし込む「つなぎ役」の存在が求められていると強く感じるとともに、そこで看護職が発揮できる力や、その地道な実践を言語化し発信していく重要性を改めて感じさせられたシンポジウムでした。現場や個人に応じた支援を形にし、適切な資源へつなぐことは看護職の強みであり、よりよい実践のためには、継続的な学びが欠かせないことを改めて実感した学会となりました。

学会参加の醍醐味は、知識の習得にとどまらず、講演や討論の熱量に触れ、次のアクションへのヒントを得られることにもあります。加えて、今回は地元仙台での開催であったことから、前職の同僚との再会や新たな交流も生まれました。こうした出会いと刺激を得られるのは、全国を巡る学会ならではの魅力です。

来年は大阪での開催です。次回もまた、多くの学びと出会いが生まれる場となることを期待しています。

## 第98回日本産業衛生学会の報告

## 第98回日本産業衛生学会に参加して

医療法人五月会

おおし歯科クリニック

大橋 正和



令和7年5月15日、16日に仙台で開催された第98回日本産業衛生学会に参加した。

当日はお天気にも恵まれ、5月の新緑に囲まれた会場で「持続可能でよりよい世界を目指す産業保健」という学会テーマを心から感じることができた。

参加したいプログラムがたくさんあったが、主に仕事柄、歯科の演題に集中的に参加した。

初日は産業歯科保健部会前期研修会として東北大の竹内研時先生から「就労世代の健康づくりに向けた歯科口腔保健の役割」というご講演を拝聴した。

世界疾病負担研究では歯科口腔疾患の治療費は多くの国で「糖尿病」や「心臓病」に次ぐ第3位の財政負担を強いていることや全世界で約3割の成人が永久歯のむし歯の治療を放置している実態など世界の歯科保健に関する新たな知見が示された。

また、二日目は産業歯科保健部フォーラム「事業場における労働者の健康保持増進（THP）に口腔保健を取り入れるには？」において、「特定健診・特定保健指導における歯科口腔保健の新たな展開」という演題で、今度は翻って演者として登壇する機会を与您いただいた。

令和4年度に奈良県では県、国保連、歯科医師会が協働し、特定健診の質問票No.13の咀嚼の質問で「噛みにくさを自覚し、かつ1年間歯科を受診していない」方々を対象に生活習慣病対策の一環として、歯科受診勧奨を行うシステムを全国で初めて県単位で構築したこと。また、結果として初年度は3687名の方々に歯科受診勧奨が行われ、896名、約25%の高率で実際に歯科を受診された事などをお伝えした。

講演後は歯科に強い興味を持っておられる現場の医師から真摯な質問を頂くことができた。またTHPに口腔保健を導入しようとなさっている企業の方々からの問い合わせ等もあり、学会での発信力を改めて肌で感じることができた。

今後、並列開催のため、聞き逃した魅力的なプログラムはぜひオンデマンドで視聴したいと考えている。

## 第73回近畿地方会学術講演会報告

第73回近畿地方会学術講演会  
特別公演1のご報告

株式会社カプコン

西田 典充

産業医科大学の堀江正知教授による特別講演「安衛則改正に伴う職場の熱中症対策」を拝聴しました。令和7年6月1日より、事業者に対する熱中症対策が罰則付きで義務化されたことをふまえ、実務に直結する大変示唆に富んだご講演でした。

講演は、法改正の具体的な内容から始まり、近年の気温上昇の傾向をデータで確認しました。続いて、熱中症のリスク評価に不可欠な WBGT や、発汗の生理学的メカニズム、さらには疫学的なデータから死亡災害の傾向など、基礎から臨床、そして産業保健での実践まで、多岐にわたる内容を網羅的に解説いただき、知識を深めることができました。

特に、現場での具体的な対策に関する科学的知見は、今後の対策を検討する上で大変参考になりました。例えば、多くの職場で導入が進むファン付き作業服が深部体温の上昇を抑制するという研究結果や、冷水循環服の有用性を示した研究は、具体的な対策備品を選定する上で重要な指針となります。さらに、作業前にアイススラリを摂取して身体をあらかじめ冷却する「プレクーリング」という手法は、暑熱環境を避けられない作業者にとって、即効性のある新たな予防策として非常に興味深く感じました。

最後に、現場ですぐに利用できる「働く人の、今すぐ使える熱中症ガイド」もご紹介いただき、基礎から現場での活用まで、幅広く大変参考となるご講演でした。



演者：堀江 正知 先生  
(産業医科大学 産業生態科学研究所 産業保健管理学 教授)

## 第73回近畿地方会学術講演会報告

第73回近畿地方会学術講演会  
特別講演2を拝聴して

セーフティ・フューチャー ラボ

代表 廣瀬 雅康



この度拝聴いたしました豊岡先生のご講演は、化学物質管理における重要な視点が多く、産業衛生に関わる実務担当者にとって非常に有益な内容でした。私自身、これまでUSJにおいて労働安全衛生管理を担当し、化学物質取扱いにおける保護具の特性や経皮暴露リスクはある程度理解しておりましたが、内容を拝聴して今までの認識を改めて変える必要があると痛感いたしました。労働災害の実例は、刺激性や腐食性を有さない化学物質であっても、皮膚を通じて深刻な健康被害を引き起こす可能性があることを改めて認識し、特に、皮膚の構造や化学物質の吸収経路に関する解説は、大いに参考になる内容でした。分子量が小さく皮膚透過性の高い化学物質についても、従来以上に注意をすべき物質であるということ、また、講演の最後に紹介された青色色素を用いた皮膚透過の実験は、化学物質の皮膚吸収という目に見えにくいリスクを、視覚的に示す有効な教育手法と感じました。このような手法を活用し、現場教育においても、視覚的かつ体験的なアプローチを取り入れることで、従業員一人ひとりの安全意識向上が期待できるものになるのではないかと感じました。ご講演ありがとうございました。



演者：豊岡 達士 先生  
(独立行政法人労働者健康安全機構  
労働安全衛生総合研究所 (湘南地区)  
有害性試験研究領域 開発グループ)

## 第73回近畿地方会学術講演会報告

第73回近畿地方会学術講演会  
特別講演3を拝聴して

(株) 池田泉州銀行・健康管理室

山下 明子



本講演では、「企業におけるハラスメント対策」の演題で、大阪経済大学経営学部・大学院経営学研究科教授の田中健吾先生にご講演いただきました。

前半部分では、「ハラスメントに関する基礎知識の理解」として、心理的負荷による精神障害の労災認定基準の改正ポイントや、各ハラスメントの定義、具体的行為の例などについてご説明いただきました。パワーハラスメントの定義の解釈における「社会通念に照らし」という判断については、「平均的な労働者の感じ方」を基準に考える必要があり、この「平均値」のブラッシュアップができていなければ加害者になってしまうリスクがある、とお話いただいたことが印象に残りました。

後半部分の「ハラスメント対応における産業保健職の射程の理解」というテーマでは、ハラスメント問題への対応に、産業保健職としてどのような関わりをもつことができるか、産業保健職の強みを活かした支援策等についてご説明いただきました。また質疑応答の中で、加害者へのサポートとして、認知や行動の変容を促すソーシャルスキルトレーニング (SST) が有効であることもお話いただきました。

今回の特別講演を拝聴させていただき、大変勉強になりました。講師の先生、開催関係者の皆様に感謝申し上げます。



演者：田中 健吾 先生  
(大阪経済大学経営学部 教授)

## 近畿産業衛生技術部会研修会報告

## 近畿産業衛生技術部会研修会に参加して

中央労働災害防止協会

竹内 靖人

令和7年7月12日(土)に、ふれあい貸し会議室梅田No127大阪駅前第1ビルにて開催された近畿産業衛生技術部会研修会に参加いたしました。研修会では、「高齢労働者のための安全な作業姿勢と実践事例 ～エイジフレンドリーガイドラインに基づく取り組み～」をテーマとして講演と現場の実践事例の紹介がありました。厚生労働省は、2020年3月に「高齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)を策定し、高齢労働者の労働災害防止対策について、2026年4月から事業者は、高齢労働者の特性に配慮した作業環境の改善、作業の管理その他の必要な措置を講ずる必要があります。講演として、近畿大学准教授の佐藤望先生から「中高年女性労働者における筋骨格系障害の予防に向けた対策について」というテーマで、女性労働者における作業関連性筋骨格系に関わる身体的リスク要因や心理社会的及び組織的リスク要因についてご紹介頂き、中高年女性労働者における予防対策のポイントについて説明していただきました。続いて、「人にやさしい職場を目指して：OWAS法による作業姿勢の評価の実践とAIの活用」というテーマで、パナソニック健康保険組合の加美綾子先生からOWAS法を用いて実習を行っていただきました。様々な姿勢を数値化して負荷の程度を数値化することにより、作業環境の改善や作業管理における必要な措置に繋がることと理解出来ました。今回の研修会は時宜にかなった内容であり、大変有意義な機会となりました。



## 第4回近畿産業歯科保健部会研修会報告

## 第4回近畿産業歯科保健部会研修会

石原歯科医院

石原 宗和



9月とは思えない厳しい暑さとなった9月7日（日）午前10時30分より、大阪府立労働センター（エル・おおさか）にて第4回近畿産業歯科保健部会研修会が「産業歯科における多職種連携」をテーマに開催された。

研修会は、まず講演1として（一社）大阪府歯科医師会 常務理事 山本道也先生より「産業歯科保健に対する大阪府歯科医師会の取り組み」と題して、講演2として小出歯科医院 院長、小出紀子労働衛生コンサルタント事務所 所長 小出紀子先生より「歯科特殊健診の現状と課題（歯科医師・労働衛生コンサルタントの立場から）」と題して、講演3として（一財）NSメディカル・ヘルスケアサービス 歯科衛生士 吉田俊香先生より「歯科・

栄養・運動などの総合的な健康づくり支援の取り組みについて～（一財）NSメディカル・ヘルスケアサービスの場合～」と題して、講演4としてオムロンエクスパートリンク株式会社 保健師 山形歩美先生より「A社事業所歯周病健診事例紹介～健康経営取り組みも含めた多職種連携について～」と題してそれぞれご講演いただき、その後、米永哲朗部会長を座長にシンポジウムを開催した。

シンポジウムでは、実際の現場での苦労や解決方法、工夫などについて、講師とフロアとで忌憚のない意見交換が行われた。特に歯科特殊健診がまだまだ未実施の事業所が多いことや、歯科特殊健診と一般歯科健診が混同されている問題、また一般歯科健診をどのように事業所に導入していけばいいのか、そのために歯科医師・歯科衛生士・医師・看護師・保健師の多職種連携をどのようにしていけばいいかについて、熱い議論が交わされた。

当日は総勢29名の歯科医師・歯科衛生士・医師・看護師・保健師の参加者があり、テーマに掲げた「産業歯科における多職種連携」の重要性を再認識するとともに、新たな産業歯科のあり方について考えることができた実りある研修会となった。

## 会員の声

知的障害をもつ従業員と話す  
時に心がけていることパナソニック健康保険組合  
共同健康管理室

三宅 晴香

私の現在の産業医先の一つに、パナソニックが所有する特例子会社があります。そこでは、軽度から中等度の知的障害をもつ従業員が働いており、人事と協力しながら数年前から産業保健活動を行っています。

最初は定期健診の事後措置面談で障害のある方と話す程度の関わりでしたが、関係性が深まるにつれて、人事との情報共有の機会も増え、障害のある社員と指導する社員の間で情報共有がうまくいかないことや、障害のある社員同士の様々な問題が浮き彫りになってきました。人事担当者はしっかり障害のある方と会話しているのに、なぜこれほど問題が起きるのか疑問に感じていました。

そんな中、あるドラマの登場人物の弟が知的障害という設定の中で、「気持ちと言葉がずれてしまうことがあ

る。私たちでもそうだから、知的障害のある弟とならもつとそうだと思う」というセリフを耳にしました。これを聞いて、知的障害のある方は私が思っている以上に、自分の伝えたいことをうまく伝えられず、もどかしい思いをしていることや、伝えたいのに伝えられないことがあるのだと改めて認識しました。

産業医として、知的障害のある方だけでなく、（あえて分類するなら）健常者の方と面談する際にも、「どういう点に困っているか」ということを意識して面談を行っています。特に知的障害のある方にはより一層、その点を丁寧に意識し、耳を傾けることが重要だと感じています。そして、その内容を適切に会社側に伝えることで、働きやすい環境づくりに貢献できると考えています。

知的障害があっても生き生きと働くことができる社会になっていくと良いなと思います。ただし、さまざまな課題も多く、簡単に解決できない問題が存在するのも事実です。会員の皆様の中で、特例子会社の産業保健を担当されている方がいらっしゃいましたら、意見交換できると幸いです。

## 産業保健の学びの日々

積水化学工業（株）人事部・健康推進室

小池 里彩

産業保健師として2年目、産業衛生学会の会員としても同じく2年目で、産業保健に携わり始めたばかりです。職場全体を見据えた集団的アプローチの重要性と難しさを実感し、日々学んでいます。

まだ経験が浅いのですが、現在は全社的な施策や健康経営の推進といった、組織全体・全従業員に向けた取り組みに携わっています。一般的にイメージされる、特定の事業場を担当して従業員個人への対応がある取り組みとは少し違ったアプローチですが、組織的な施策もまた、従業員の健康を支えるうえで重要だと感じています。

集団に向けた施策を立案するには、エビデンスに基づく企画や従業員の声や意見をくみ取る姿勢、他部署との連携が重要だと感じています。施策の受け止められ方や行動変容への影響を評価し、柔軟に見直していくことが、現在の課題です。

健康経営銘柄の評価項目への対応や改善提案、従業員のエンゲージメント向上、働きやすさ向上に関する健康施策の企画は、当社の経営課題ともかかわるものであり、産業保健職として他部署とも協働しながら、より効果的

な施策の実現に努めています。

今年の近畿産業保健看護部会定例研修会「産業保健現場でのデータ活用術」では、日々の業務に活かせる気づきを多く得ることができました。データの収集・活用から施策への展開までの具体的な手法を学び、今後の企画や効果検証に活かしていきたいと感じています。

さらに、仙台で開催された第98回日本産業衛生学会に初めて参加し、多くの実践事例や健康課題を可視化するためのデータ分析手法に触れ、大きな刺激を受けました。特に印象に残ったのは、「課題の捉え方・仮説の立て方」や「優先順位の付け方」によって、同じデータであっても分析のアプローチや解釈が変わるという点です。このような多様な分析の視点は学びとなりました。

健康経営という枠組みの中では、従業員の健康だけでなく、働きがいや生産性といった視点も意識するようになりました。産業保健師としての専門性を生かしながら、アンケート等とおして従業員の声を聴き、各事業場で健康推進を担う責任者や産業保健職、人事労務担当者など、全国にまたがる拠点と連携して、お互いに納得感を持てる施策づくりを今後も心掛けていきたいと考えています。

これからも、学会活動や他職種との交流を通じて視野を広げ、より多くの従業員が健康に、いきいきと働ける職場づくりに貢献していきたいと考えています。

\*\*\*\*\*



### 一緒に山登りしませんか？

パナソニック健康保険組合

和久 純也

今年度から近畿地方会の産業衛生技術部会長を務めております和久純也と申します。コロナ禍で運動不足の解消として始めた裏山登山でしたが、気付けば既に5年経過し、今は地元の山岳会に所属しています。毎年7月末には北アルプスの槍ヶ岳や奥穂高岳などの3,000m級の山々を登頂しており、春から夏にかけて六甲山を中心にトレーニングに励んでいます。夏の暑い時期には沢登り、冬の寒い時期にはアイゼンとピッケルを持参して雪山でのテント泊を行うまでにのめり込んでしまいました。登山を始めて色々な効果が出ているのでご紹介したいと思います。まずフィジカル面ですが、上りでは有酸素運動により心肺機能を高め、脂肪を燃やすことが出来ます。下りでは筋・骨格系に刺激を送り、糖代謝改善効果が高くなります。登山を始めた頃は毎月1kg程度減量出来

ていたのですが、半年程度経過してからは筋肉量が増加したことでほぼ横ばいの状態が続いています。次にメンタル面ですが、目標とする山頂に向けて一歩ずつ地面を踏みしめて、風の音や鳥の声に耳を澄ませます。山中では圏外になる事が多いので、スマホデトックス効果もあり、今ここに意識を向ける事が出来るのでマインドフルネスを実践しています。山頂に到達した際の達成感や山頂からの景色はさらに心を充実させてくれます。子供には登山に行きたくないと言い始めたら、パパのメンタルは黄色信号と思ってねと、家族の理解を得ながら毎週末どこかの山に登っております。しかし登山は危険と隣り合わせなので、安全に下山する事が最も重要です。いざという時にビバーク出来るようにツェルトや、簡易ハーネスを着用出来るようにスリングやカラビナは常に持参しています。特に岩稜帯ではヘルメットの着用だけでなく、三点支持やトラバースの技術が必要になります。この知識と訓練が職場での安全衛生活動にも活かされているので、本当に良い趣味を見つけたと喜んでいます。

## 第99回日本産業衛生学会 in Osaka のお知らせ

皆様こんにちは。第99回日本産業衛生学会にて広報委員長を務めさせていただき、パナソニック健康保険組合 産業医の國枝佳祐です。

大阪では大阪・関西万博も無事終了しました。皆様、万博にはお越しいただきましたか。今回の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」でした。万博を通じて未来社会の姿に触れ、産業保健の未来像を考える貴重な機会となりました。未来社会にむけて、いったいどんな産業保健が必要なのでしょう。

産業保健の課題は時代とともに常に変動しています。こうした変化に応えるべく、今回の学会テーマは「すべての働く人への産業保健—実践と学術の協働で挑む—」といたしました。関西において、万博からのバトンも引き継いだ形となりました。

さて、この壮大なテーマを実現するために今回は53年ぶりに2名の企画運営委員長にご活躍頂く事となりました。実践の立場から森口次郎先生、学術の立場から林朝茂先生にお願いしております。また、「すべての働く人」を実現すべく、総勢約80名もの役員にて開催予定です。



<https://convention.jtbcom.co.jp/sanei99/index.html>

第99回日本産業衛生学会 HP

そして、「すべての働く人」を完成させる最後のピースは、このニュースを読んでくださっている“あなた”です。皆様に、学会を知ってもらうために、今回は広報委員も総勢8名の体制で実施していきます。

公式LINEや公式Xも開設を行い、積極的な情報発信をしていきます。SNSでは学会当日の有益な情報は勿論、学会申込等のアナウンス、大阪のお得情報なども発信していきますので、早めに登録して絶対損はしません。登録よろしくお願いたします。



<https://lin.ee/vyEty97>

LINE 公式アカウント



<https://twitter.com/99sanei>

公式 X

2026年5月に下記にて、皆様にお会いできるのを楽しみにしております。

～記～

日時：2026年5月27日～30日

場所：大阪国際会議場

テーマ：すべての働く人への産業保健—実践と学術の協働で挑む—

開催方法：現地開催及び一部オンデマンド配信予定（学会終了後配信予定）

企画運営委員長：林 朝茂（大阪公立大学大学院医学研究科産業医学）

森口 次郎（合同会社森口産業医事務所）

事務局：大阪公立大学大学院医学研究科産業医学

〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

運営事務局：株式会社JTBコミュニケーションデザイン

コンベンション第二事業局

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25

JTBビル8階

TEL：06-4964-8869

E-mail：sanei99@jtbcom.co.jp

**第99回 日本産業衛生学会**  
すべての働く人への産業保健  
— 実践と学術の協働で挑む —

5月31日  
特別研修会

2026年5月27日(水)・30日(土) 大阪国際会議場

企画運営委員長：林 朝茂 (大阪公立大学大学院医学研究科産業医学)  
森口 次郎 (森口産業医事務所)

学術事務局：大阪公立大学大学院医学研究科産業医学 〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3  
運営事務局：株式会社JTBコミュニケーションデザイン コンベンション第二事業局  
〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル8階 TEL:06-4964-8869 E-mail:sanei99@jtbcom.co.jp

## 令和7年度日本産業衛生学会近畿地方会産業精神衛生研究会のご案内

テーマは令和6年度のアンケートをもとに「企業におけるハラスメント対策」としました。

近年、企業においてハラスメントはおおきな課題となっています。ハラスメントをする人は上司他顧客等多岐にわたり、頻度の高いパワハラも類型は様々でそれぞれに見合った対策が必要です。

大林先生にはこういった企業内でのハラスメント問題に対し、産業医と精神科医の両面からの視点で対応の実際と留意点をお話いただき、現場での判断の難しさや、関係者支援における精神科医の役割について、事例も交えながら考察していただきます。

(日医認定産業医研修会指定申請中)

【日時】2025年11月5日(水) 18:30～20:30

【場所】エル・おおさか 南ホール

大阪市中央区北浜東3-14

(地下鉄天満橋駅、京阪電車天満橋駅)

【参加費】学会員 1,000円



### 【プログラム】

「産業保健現場のデータから見るパワハラの現状」

講師：木村 隆 先生

一般財団法人近畿健康管理センター理事長 (産業医・労働衛生コンサルタント)

「精神科医×産業医として伝えたい ハラスメント対応のポイント」

講師：大林 知華子 先生

Actwith 株式会社代表取締役 ロート製薬株式会社 統括産業医 (産業医・精神科専門医・労働衛生コンサルタント・産業保健法務主任者)

座長：藤吉 奈央子 先生(株式会社トラストチャーム)

### 【参加申込・お問い合わせ】

[https://app.payvent.net/embedded\\_forms/show/688d9db0b266962688676787](https://app.payvent.net/embedded_forms/show/688d9db0b266962688676787)



※事前参加登録2025年9月1日(月)～10月31日(金)

お支払いはクレジット決済のみご利用いただけます。

決済を行った時点で登録が完了します。定員になり次第、締切ります。

日本産業衛生学会近畿地方会産業精神衛生研究会事務担当 蜂尾 哲生 (TEL 077-525-3233) 近畿健康管理センター内

## 若手活性化プロジェクト2025年度の活動案内

若手活性化プロジェクトでは、過去の“調査・研究をしたいがやり方が分からない”という声にこたえて2022年より3か年計画で疫学を学ぶ場、つながる場を会員の皆様に展開しています。2023年は疫学について学ぶ研修でしたが、“手を動かしながらやってみよう”というコンセプトのもと、2024年には『解析ソフトStataを使って実際に解析してみる』という類を見ない貴重な研修を大阪公立大学の林 朝茂先生と教室の先生方のご協力のもと実施しました。

2026年5月に99回日本産業衛生学会を迎えた今年、3か年計画の最後となりますが、昨年と同じ研修を開催する事になりました。昨年の研修後、学会発表をされた参加者の方もおられました。今年もぜひ学んで大阪での発表を目指し学会を盛り上げましょう！

また“つながる場”“共有する場”として参加型イベントも開催予定です。

どちらも毎回かなり好評で懇親会まで楽しい時間が続きます。“一度も若活の研修に参加した事ない”という方も“何回も参加している”という方も、すべての皆様

のご参加をメンバー一同お待ちしております。

### (1) 学会発表に役立つ研修会

第4回わかりやすい統計講座 実践編

講師：林 朝茂先生(大阪公立大学 都市医学講座産業医学)

日時：11月1日(土) 13時30分～16時00分

場所：大阪公立大学阿倍野キャンパス

定員：25人(先着順です。昨年11月のセミナーに参加できなかった方を優先します)

(申し込みは10月19日までを予定)

### (2) 参加型イベント

これまでは産業保健初心者を対象にウォーキング&ワールド・カフェを開催していました。

毎年お一人で参加される方も多いたりますが、仲間づくりにもなっているこちらも好評のイベントです。

今年度は少し趣向を変えて情報交換・交流をメインに開催予定です。

日程、場所、内容については決まり次第地方会WEBサイトなどで公表します。

### 〈日本産業衛生学会 近畿地方会 若手学会員活性化プロジェクト〉

幹事：森口次郎、濱田千雅、藤吉奈央子、岩根幹能、和久純也、宮川秀男

実行委員：喜多岡蓮美(看)、竹田朋代(医)、奥田恵司(歯)、加藤尚(歯)、伊藤得路(医)、清水彰子(看)、福田郁巳(看)

## 産業医部会からのお知らせ

### 第1回産業医アソシエイトコース 開催報告

2025年6月28日に、大阪市内で「第1回産業医アソシエイトコース（Aコース）」を開催しました。Aコースはプロフェッショナルな産業医になるために必要な知識、コンピテンシーの取得と参加者同士の交流を目的としたもので、1日の研修で講義、グループワーク、実務相談会をおこないました。

講義では近畿地方会所属の内山鉄朗先生、黒木和志郎先生、西川佳枝先生、藤田周弥先生に労働衛生の3管理および総括管理を講義いただき、林朝茂先生には疫学の講義をいただきました。グループワークでは2つの事例を6～7人のチームで議論、発表いただきました。Aコースの新たな取り組みとしてグループワークを客観的に評価する「ルーブリック」を作成し、ディスカッションや発表について一定の基準をもってフィードバックをおこないました。実務相談会は、受講生が普段業務で相談できないことを、世代の近い参加者と共有でき、経験豊かな産業医からアドバイスをもらえる機会となり、会場は大いに盛り上がりました。

最後に、講師の先生方、産業医部会幹事の先生方、企画運営委員・実行委員の先生方、参加者の皆様に感謝申し上げます。

企画運営委員長 深井 恭佑（株式会社リードウェル）  
実行委員長 中山 雅史（株式会社大阪奈良産業サービス）

## 産業保健看護部会からのお知らせ

### 〇近畿産業保健看護部会会員の皆様

いつも部会活動にご協力いただきありがとうございます。10月4日に、グラングリーン大阪で部会定例研修会が終了しました。近畿大学法学部教授の三柴丈典先生をお招きし、健康情報に関わる主要な法制度を理解し、法的・倫理的観点から判断する力を養うとともに、ケーススタディを通じて実務に直結する知識を学びました。その後、産業保健看護部会の五十嵐千代部会長との有意義な懇談会が開催されました。ご参加いただきありがとうございました。

次は11月8日（土）開催の第65回近畿産業衛生学会が予定されています。専門家制度登録者の方は、単位取得の機会であるだけでなく、学会ポイントの取得、ボラ

ンティアに登録し社会貢献実績も取得する機会でもあります。地方会ホームページで詳細をご確認いただき、積極的にご参加ください。

注）ボランティア募集は締め切られている可能性もありますのでご了承ください。

### 〇産業保健看護部会未入会の皆様

産業保健看護部会では部会員を募集しています。（活動費年2,000円）

部会企画の各種研修会の参加費優遇などのメリットがあります。入会方法については、日本産業衛生学会産業保健看護部会入会方法をご覧ください。

産業保健看護部会 HP：

[https://sangyo-kango.org/wp/?page\\_id=33](https://sangyo-kango.org/wp/?page_id=33)

部会長 鈴木 純子

## 産業歯科保健部会からのお知らせ

産業歯科保健部会の最新トピックスを御紹介します。

1) 7月16日（水）～19日（土）インテックス大阪で開催されたGISHW（Global Initiative for Safety, Health and Well-being）で国際シンポジウムの「第二部 日本における産業保健の未来」セッションで、日本産業衛生学会前理事長の森見爾先生から、産業歯科保健部会活動について、特に日本歯科医師会とのコラボレーションによる活性化について紹介されました。

2) 2025～2026年度版健康経営アドバイザー・エキスパートアドバイザーの新テキストが発刊されました。2023～2024年度版に引き続き、歯・口腔の予防の項目の執筆の依頼が産業歯科保健部会にあり、担当者で執筆し、掲載されています。

3) 第25回日本歯科医学学術大会（日時：9月26日（金）～28日（日） 会場：パシフィコ横浜会議センター）において、日本産業衛生学会産業歯科保健部会として講演依頼がありました。日本を代表する企業のトップの方々のシンポジウムの後に、安田が座長で「働く人々と企業を歯と口から支援する～合点で動かす歯科予防プログラム～」と題して前産業歯科保健部会長の加藤元先生が講演しました。また、弊部会員の大橋正和先生が優秀ポスター賞を受賞されました。10月31日までオンデマンド配信もされているので、関心のある方は是非ご視聴下さい。

日本産業衛生学会産業歯科保健部会会長

近畿産業歯科保健部会副部会長 安田 恵理子

## 編集後記

このニュースがお手元に届くころには、大阪・関西万博も幕を閉じています。未来社会を体感する場として、多くの方が会場やニュースを通じて関心を寄せられたのではないのでしょうか。私たち産業保健職もまた、AI時代や人口減少といった大きな変化のさなかに、働く人や地域の「ウェルビーイング」をどう支えるかを問い続けています。学会や研修会は、そんな問いに向き合う仲間と出会い、つなが

りを広げる大切な場です。11月の近畿産業衛生学会や各種研修会でも、皆さまとともに次の一歩を見つけていければと思います。（村田 理絵）

編集委員（50音順）

石原 宗和 井上 幸紀（担当理事） 岡本 昭夫  
清原 達也 村田 理絵（当番編集長）